

# 飯岡秀夫教授 略歴および研究業績

## 履 歴

昭和14年4月	東京都豊島区に生まれる。
昭和33年3月	東京都立小石川高等学校卒業
昭和38年3月	慶應義塾大学商学部卒業
昭和39年4月	慶應義塾大学大学院経済学研究科経済理論専攻修士課程入学
昭和41年3月	慶應義塾大学大学院経済学研究科経済理論専攻修士課程修了(経済学修士)
昭和41年4月	慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程入学
昭和41年6月	東京都立向島商業高等学校(定)教諭(昭和45年3月まで)
昭和45年3月	慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学
昭和45年4月	高崎経済大学経済学部助手(昭和46年3月まで)
昭和46年4月	高崎経済大学経済学部専任講師(社会思想史特講、経済原論、演習担当)(昭和49年9月まで)
昭和49年10月	高崎経済大学経済学部助教授(社会思想、経済原論、演習担当)(昭和57年3月まで)
昭和55年4月	慶應義塾大学商学部兼任講師(近代思想史担当)(平成16年3月まで)
昭和57年4月	高崎経済大学経済学部教授(社会思想、経済学史、演習担当)(現在に至る)
平成2年2月	高崎経済大学経済学部経済学科長(平成4年1月まで)
平成4年2月	高崎経済大学広報委員長(平成6年1月まで)
平成6年2月	高崎経済大学学生部長(平成8年1月まで)
平成8年2月	高崎経済大学評議員(平成10年3月まで)
平成9年4月	高崎経済大学地域政策学部兼任教員(経済倫理学、地域文化論担当)(平成15年3月まで)
平成10年4月	高崎経済大学経済学部長(平成12年3月まで)
平成12年4月	高崎経済大学附属図書館長(平成16年3月まで)
平成12年6月	日本ホスピタリティ・マネジメント学会理事(現在に至る)

## 高崎経済大学での主なる役職

1. 経済学部経済学科長 (H.2 ~ H.4)
2. 広報委員長 (H.4 ~ H.6)
3. 学生部長 (H.6 ~ H.8)

- 4．評議員 (H.8～H.10)
- 5．経済学部長 (H.10～H.12)
- 6．図書館長 (H.12～H.16)

### 所属学会

- 昭和45年4月 経済学史学会（現在に至る）
- 昭和50年4月 社会思想史学会（現在に至る）
- 昭和50年4月 社会政策学会（平成16年3月まで）
- 昭和52年4月 経済社会学会（現在に至る）
- 平成9年4月 日本経済思想史研究会（現在に至る）
- 平成11年6月 日本ホスピタリティ・マネジメント学会（現在に至る）

### 資 格

高等学校教諭普通免許状1級（社会科） 東京都教育委員会

### 研究テーマ

「ウェーバーとマルクス」問題が、学部、大学院、助手、専任講師時代までの研究テーマであった。助教授に昇任した年（1974年）に、ウェーバーとマルクスを媒介する思想家にルソーがいることを知り、以後、「ウェーバーとマルクス」問題視角からの、「ルソー研究」を中心テーマとした。

ルソーもマルクスもウェーバーも「近代に於る人間の運命いかん」さらにいえば近代文明に於る「人間の救済」を問題にした思想家であることから、「ウェーバーとマルクス」問題視角からの「ルソー研究」は、必然的に、次の三つの研究テーマを随伴した。1．フロイト、ユングらの深層心理を基底とする、社会・経済理論 文明論 を追求すること、2．「思想的原素」の相違から、西欧文明と東洋文明との質の差をつかみとり、もって、両者の融和の可能性を追求すること、3．ルソー、マルクス、ラスキンらの「思想・経済学」を源流とする「環境思想・経済学」の系譜をつかみとり、「ホスピタリティ経済学」を構築すること。

約30年間つづけてきた「ルソー研究」に随伴する、以上、三つの研究テーマの深化・追求が、これからの課題である。これぞ、正に、「日暮れて、道遠し」の典型ではあるが。

### 研究業績

#### ．著書

- A．単著 1．『「民主制」の構想 ロック、ルソー、マルクス、ウェーバー』  
平成11年4月 高文堂出版社
- 2．『ルソーの「文明論」 「再生」の行方』

平成14年4月 高文堂出版社

3. 『ルソーの「経済論」「本然」と「逸脱」』

平成15年9月 高文堂出版社

- B. 共著
1. 社会科学への発想 昭和58年4月 三一書房
  2. 近代とその開削 昭和62年6月 清水弘文堂
  3. 高度成長時代と群馬 昭和62年10月 日本経済評論社
  4. 近代群馬の思想群像 昭和63年3月 ブレーン出版
  5. 近代群馬の思想群像 平成1年3月 日本経済評論社
  6. 群馬・地域文化の諸相 平成4年3月 日本経済評論社
  7. 群馬に見る人・自然・思想 平成7年3月 日本経済評論社
  8. 経営システムの日本的展開 平成10年6月 創成社
  9. 近代群馬の民衆思想 平成16年2月 日本経済評論社

. 学術論文

1. マルクスの哲学に於る人間の問題 単 昭和42年3月 『三田経済研究』創刊号
2. マルクスに於る経済学《批判》的精神態度の生成と場所的立場の確立 単 昭和45年11月  
『高崎経済大学論集』第13巻1号
3. マックス・ウェーバーに於る「魔術からの解放」の意味 [一] [二] 単 昭和46年11月  
昭和48年3月 『高崎経済大学論集』第14巻1・2号、第15巻4号
4. ルソーの人間観と社会観に関する一考案 「失樂園」的「自己疎外論」としてのルソー思想 - 単 昭和51年3月 『高崎経済大学論集』第18巻4号
5. 『エミール』にあらわれたルソー思想に関する一考案 ルソーにおける「自由と幸福」への道 (上) (下) 単 昭和51年10月 昭和51年12月 『高崎経済大学論集』第19巻2号、  
第19巻3号
6. 『新エロイズ』にあらわれたルソー思想に関する一考案 ルソーにおける「エロスと小さな共同体」 単 昭和52年11月 『高崎経済大学論集』第20巻1・2・3・4合併号
7. ルソーにおける政治論の構想 自然成長性の揚棄と目的意識性の実現 単 昭和55年3月  
『高崎経済大学論集』第22巻4号
8. ルソー思想とウェーバー思想の類似と相違について ルソーの「自然人」とウェーバーの「文化人」をめぐる 単 昭和55年10月 『高崎経済大学論集』第23巻1号
9. 社会理論のための準備的考察 現象学的社会理論序説 単 昭和56年11月 『高崎経済大学論集』第24巻1号
10. ウェーバー社会理論の構造と意義 単 昭和57年2月 『理想』'82.2号 (第585号)
11. ウェーバーに於る「法」と「支配」 単 昭和57年3月 『高崎経済大学論集』第24巻4号
12. 若きルソーの挫折 ルソーに於る学問的精神態度の生成 単 昭和57年12月 『現代社

会学研究』創刊号

13. ルソーに於る「人間」と「公民」について ルソーに於る「教育論」と「政治論」の統一のための試論 単 昭和58年3月 『高崎経済大学論集』第25巻4号
14. ルソーの人間観、社会観、歴史観について マルクスとの比較に於いて 単 昭和61年3月 『高崎経済大学論集』第28巻4号
15. 「本然」と「逸脱」 ルソー思想の全体像の再構成の試み 単 昭和61年6月 『三田商学研究』第29巻2号
16. 福沢諭吉と内村鑑三 日本における「内面的個人主義」の二つの源流 (上)(中)(下) 単 昭和62年9月~63年3月 『高崎経済大学論集』第30巻1号~4号
17. 内村鑑三に於る心の空虚 若き内村鑑三の思想形成 単 平成2年3月 『慶応思想史林』第一巻第1号
18. ルソーに於る「文明論」の構想と構造 単 平成3年3月 『慶応思想史林』第二巻
19. ルソーの「純粹自然状態」について 単 平成3年10月 『高崎経済大学論集』第34巻2号
20. ルソーの「社会形成」の論理について 単 平成4年4月 『高崎経済大学論集』第34巻4号
21. 安藤昌益の経済 社会思想 単 平成6年3月 『NOVITAS』第3号
22. ジャン=ジャック・ルソーと安藤昌益 「自然」と「人為」の問題を中心として 単 平成6年4月 『慶応義塾大学日吉紀要社会科学』第五号
23. ロック、ルソー、マルクス 「オム」と「シトワイヤン」をめぐって 単 平成7年6月、平成8年11月 『慶応義塾大学日吉紀要社会科学』第6号、第7号
24. 「内なる光」考 「キリスト者の自由」と近代 単 平成7年9月 『高崎経済大学論集』第37巻2号
25. マルクスに於る「民主制」の構想 単 平成8年2月 『高崎経済大学論集』第38巻3号
26. マルクスの経済学に於る「ヒト」、「モノ」、「地球・生命」 「地球生命系の経済学」の基礎視角 単 平成9年11月 『高崎経済大学論集』第39巻1号
27. ジョン・ロックにおける「法」と「自由」 単 平成9年11月 『高崎経済大学論集』第40巻1・2号合併号
28. ジョン・ロックの「自然観」、「人間観」、「社会観」 単 平成10年2月 『高崎経済大学論集』第40巻3号
29. ジョン・ロックにおける「民主制」の構想 単 平成10年2月 『NOVITAS』第7号
30. ルソーにおける「民主制」の構想 単 平成10年3月 『高崎経済大学論集』第40巻4号
31. ホスピタリティとセラピーとの交差 「心」と「心」との融和を求めて 単 平成12年7月 『HOSPITALITY』第7号(日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌)
32. 「ホスピタリティ文化」の心理的構造 単 平成13年3月 『HOSPITALITY』第

8号(日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌)

33. ルソーの家庭教育論 その構想と構造 単 平成13年9月 『高崎経済大学論集』第44巻2号
34. ルソー「文明論」の拠点 平成13年12月 『高崎経済大学論集』第44巻3号
35. 「いやし」と「もてなし」 「ツーリズム」に於るホスピタリティとセラピー 単 平成14年3月 『HOSPITALITY』第9号(日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌)
36. ルソーに於る「経済」と「人間」 単 平成15年3月 『高崎経済大学論集』第45巻4号
37. 東洋・日本的ホスピタリティの一祖型 単 平成15年3月 『HOSPITALITY』第10号(日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌)
38. エコロジーとホスピタリティ 「開放定常系」としての「生活圏」の構想と構造 単 平成16年3月 『HOSPITALITY』第11号(日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌)

#### 翻訳

・アディゼス『自主管理企業の組織と適応』、共訳、時潮社  
学会発表

1. 「ウェーバー『経済理論』の構想と構造」、「経済社会学会」全国大会
2. 「ルソーの人間観、社会観、歴史観について マルクスとの比較に於て」、「経済学史学会」関東部会(1985.10)
3. 「ホスピタリティとセラピーとの交差 『心』と『心』との融和を求めて」、「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」第8回全国大会
4. 「『ホスピタリティ文化』の心理的構造」、「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」第9回全国大会
5. 「『いやし』と『もてなし』 『ツーリズム』に於るホスピタリティとセラピー」、「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」第10回全国大会
6. 「東洋的ホスピタリティの祖型」、「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」第11回全国大会
7. 「エコロジーとホスピタリティ 『開放定常系』としての『生活圏』の構想と構造」、「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」第12回全国大会
8. 「ラスキンの『思想・経済学』の一考案 『ホスピタリティ経済学』構築の観点から」、「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」第13回全国大会